

『子どもが聴いてくれて話してくれる会話のコツ』

(天野ひかり、汐見稔幸 サンクチュアリ出版 2016.6.)

この本の冒頭に、こんな文章があります。『断言しましょう。子どもとの会話には「コツ」が必要なんです。「愛情」だけではダメなんです。なぜなら愛情は、会話のコツをわかって、初めて伝わるものだからです』

◆10歳までの親子の会話が、人生を決める

◆親の一番大切な役割は「子どもの自己肯定感を育てること」

◆自己肯定感の鍛え方（器を大きくする方法）は、ただひとつ。

それは「親の言葉かけ」。自分は丸ごと認められている、自分は丸ごと愛されている、と実感できると「ぼくは、ぼくだから大丈夫、わたしだから大丈夫」と感じ、自己肯定感はどんどん育っていく

◆子どもへの言葉かけは、人生でいちばん大切と言っても過言ではない

◆会話の8つのコツ

- 1 子どものよいところ、悪いところ、**どちらも認める**
- 2 会話の目的を明確にする
- 3 聞き出そうとしない
- 4 ひたすら、**うなづく**
- 5 子どもの言葉をくり返す
- 6 子どもの気持ちを、言葉に置き換える
- 7 「気持ち」を受け止めてから、4W1Hで「事実」を聞く
- 8 **指示しない。禁止しない**